

# 町会だより

和田三丁目東町会

2017  
1月号 I

謹賀新年

新年ご挨拶

和田三丁目東町会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。穏やかで暖かな三が日となり、ご家族お揃いで楽しいお正月を過ごされたこととお慶び申し上げます。

旧年中は当町会の諸活動に対し、多大なご支援を賜り心からお礼申し上げます。昨平成28年は熊本地震や北海道や東北での台風水害、年末の糸魚川の大火など、全国各地で大災害の発生もありましたが、幸い当町会の地域は平穏な一年で終えることが出来ました。

旧くからの干支に関わる格言では「申酉騒ぐ、戌笑う」とあり、過去の酉年に起こった大きな政変等を引き合いに、今年の時勢を予想する報道番組が目立ちましたが、仮に国政や都政に大きな変革が起ころうとも、地域の皆さんの平和で幸せな日常のために、安心・安全な街を守ることを第一義に今平成29年も

町会活動に注力したいと考えております。

昨年は杉並第十小学校が「創立80周年・移転30周年」を迎え、12月初旬に記念式典と祝賀会が開催されました。多数の来賓や教職員、地域関係者それと同窓の卒業生が参加され、生徒達の素晴らしいパフォーマンスとPTAのお母さん達の強力な後方支援で、この周年記念行事は非常に好評を博しましたが、全体的な雰囲気盛り上げてくれたのは同窓の卒業生達でした。

現教職の方々、在校生またはその保護者として関わられた皆さんにとつて、80周年は将来へのスタートラインとしての意義が重要ですが、同窓生にとつては10年に一度の母校への里帰りで、昔の仲間との絆を確かめ合う機会としての価値が何より大切です。

半世紀前には同期生の全員がこの地域で暮らしていました。同じ学

校区という地縁で杉十小へ通学し、同じ給食を食べ、一緒に放課後を遊んで過ごしました。この小学校6年間と、その後大半の生徒が揃って進学した高南中でのプラス3年間の共有体験によって、9年間かけて培われた地縁由来の仲間の絆は決して脆弱なものではありません。現在はこの学校区域内に生活拠点を構えている仲間は殆ど居ないので、今回のような再会の機会があれば、即刻昔の悪ガキ仲間に戻る強靱なパワーをこの絆は秘めているのです。この絆のパワーが当日の杉十小の体育館には心地よく満ち溢れていたように感じられました。

わが国は今、世界のどの国も経験したことのないスピードで少子高齢化が進行しています。地方の過疎化も年々深刻さを増しています。東京23区は流入人口で支えられています。ですが、私共の身近な地域でも少子化に起因した学校統合の計画が具体化していることはご承知の通りです。杉十小の周年記念でははつきり感じ取れた同窓生

の絆のパワーも、同窓の抛り処自体が変わってしまえば、先々維持していくことは極めて難しくなるかも知れません。この地域で大切な地縁形成の原点であり、わが母校でもある杉十小と高南中の両校が、将来にわたって同窓の絆の抛り処として存続してくれることを祈念したいと思います。この小中学校で培われる同窓の地縁と併せて、和田三丁目東町会で育まれる近隣の地縁も大切に、「情のある住み心地の良い街」づくりを目指したいと思います。

末筆になりましたが、平成29年の町会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成29年1月吉日  
和田三丁目東町会  
会長 志達 和雄

